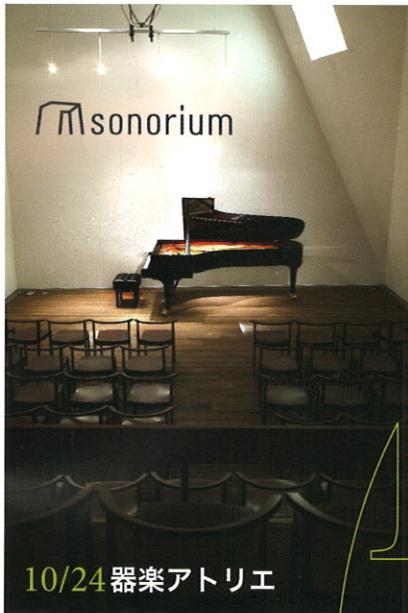


新しい音楽がここに。日本現代音楽協会 (現音) 情報紙 Website: www.jscm.net E-mail: aki2009@jscm.net

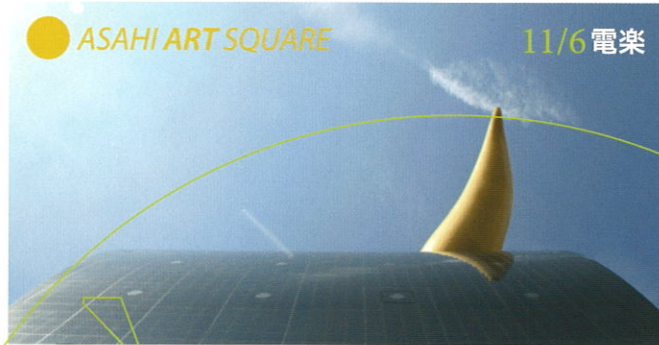
# gendai-ongaku

コンテンポラリー・ミュージック

現音2009→2010シーズン・秋



10/24 器楽アトリエ



riX

現代の音楽活動に一番求められているもの——  
それはやはり、

人間性の再発見・再認識・再開発なのではないだろうか。

何時の時代に作曲された作品でも、  
強く聴き手の心に迫ってくるのは、  
深い人間性をもったものだからだ。

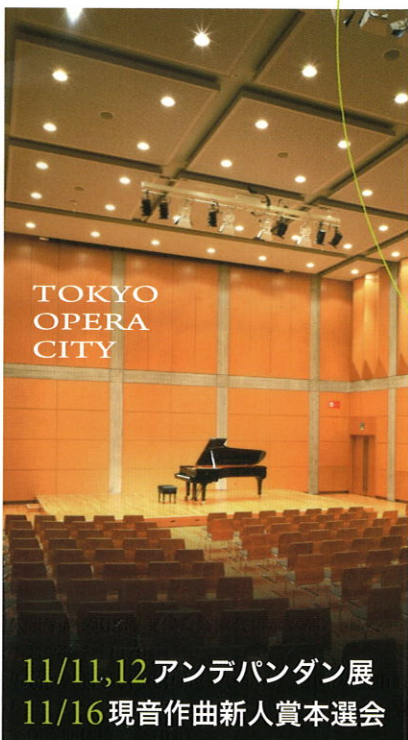
特に現代社会では環境問題を始めとして、  
人間が人間に還る動きが盛んになってきている。  
音楽もその一翼を担えないものだろうか。(堤剛)

## 現音・ 秋の音楽展2009

### 人間性と共に歩む現代音楽

芸術監督：堤剛

●主催：日本現代音楽協会(国際現代音楽協会日本支部)



11/11,12 アンデパンダン展  
11/16 現音作曲新人賞本選会

◎主催：日本現代音楽協会(国際現代音楽協会日本支部) 平成21年度文化庁芸術団体人材育成支援事業

◎共催：日本電子音楽協会[11/6]

◎助成：社団法人私的録音補償金管理協会(sarah) 財団法人朝日新聞文化財団 財団法人花王芸術・科学財団

◎協賛：サントリーホールディングス株式会社 アサヒビール株式会社[11/6]

◎後援：日本音楽作家団体協議会(fca)



th Anniversary

創作は無限



gen-on

日本現代音楽協会創立80周年

Count Down...

2010.4.28

現音・秋の音楽展 2009 ②

## 電楽IV~ライブエレクトロニクス過去形/未来形

2009年11月6日[金]

18:30 開場 19:00 開演

アサヒ・アートスクエア

### ▼第1部 ライブ・エレクトロニクス過去形 (歴史的作品の上演とシンポジウム)

①

②-① ジョン・ケージ (1912-1992 / アメリカ)

#### 心象風景第1番

作曲 1939年

岩崎真 (Player 1 レコードプレーヤー) 山田香 (Player 2 レコードプレーヤー)

牧野美沙 (Player 3 打楽器) 山本清香 (Player 4 ストリング・ピアノ)

②

②-② ピエール・ブーレーズ (1925- / フランス)

#### 二重の影の対話 (Sax ヴァージョン)

作曲 1985年

佐藤淳一 (サクソフォーン) 森威功 (コンピュータ)

③

レクチャー/沼野雄司「ライブ・エレクトロニクス再考」

④

——休憩——

### ▼第2部/ライブ・エレクトロニクス未来形 (新作初演コンサート)

⑤

②-③ キム・ニコル

無声映画「真夏の夜の夢」による箏とピアノのためのライブ・エレクトロニクス

#### 「Dream Away the Time」

作曲 2009年/初演

吉川あいみ (生田流箏曲) 山本清香 (ピアノ) キム・ニコル (コンピュータ)

⑤

②-④ 水野みか子

#### バスーンとコンピュータのための「整列効果」

作曲 2009年/初演

桑原真知子 (バスーン) 新美太基 (映像プログラム) 水野みか子 (コンピュータ)

◎制作: 西岡龍彦

◎音響: 岩崎真、中原楽

◎共催: 日本電子音楽協会

◎協賛: アサヒビール株式会社

◎協力: 株式会社コルグ



Autumn Exhibition of Contemporary Music 2009 ②

# den-gaku IV

Friday 6 November 2009

19.00

Asahi Art Square

## ▼Session 1

**John CAGE** (1912-1992/ USA) ②-①

### **Imaginary Landscape No.1**

1939

Makoto IWASAKI, *player 1 turntable* Kaoru YAMADA, *player 2 turntable*  
Misa MAKINO, *player 3 percussion* Sayaka YAMAMOTO, *player 4 string piano*

**Pierre BOULEZ** (1925-/ France) ②-②

### **DIALOGUE DE L'OMBRE**

1985

Junichi SATO, *saxophone* Takeyoshi MORI, *computer*

Lecture/ Yuji NUMANO "Reconsideration of Live Electronics"

— Intermission —

## ▼Session 2

**Nicole KIM** ②-③

### **Dream Away the Time**

2009, premiere

Aimi KIKKAWA, *13-gen* Sayaka YAMAMOTO, *piano* Nicole KIM, *computer*

**Mikako MIZUNO** ②-④

### **Alignment Effect for bassoon and computer**

2009, premiere

Machiko KUWABARA, *bassoon* Taiki NIIMI, *image program* Mikako MIZUNO, *computer*

© Producer: Tatsuhiko NISHIOKA

© Sound Producer: Makoto IWASAKI, Raku NAKAHARA

© Co-Organization: Japan Society of Electronic Music

© Support: Asahi Beer Limited

© Cooperation: KORG Inc.

現音・秋の音楽展 2009 ②

## 電楽Ⅳ～ライブエレクトロニクス過去形／未来形

den-gaku IV

### ご挨拶

制作担当 西岡龍彦

②  
ライブ・エレクトロニクスの世界最初の作品については諸説あり、ケージの《Imaginary Landscape NO.1》とすると今年で70年になります。しかし、この作品はラジオ放送のために作曲されたもので、世界最初の電気機器(レコードプレーヤー)を用いた作品ではあっても、ライブ・エレクトロニクス作品とするには問題があるかもしれません。

③  
ライブ・エレクトロニクスは、現代音楽の主要な表現形態であり、時代ごとにさまざまな特徴をもつ作品が生み出されてきました。エレクトロニクスの進歩は、ますますライブ・エレクトロニクスの可能性を拡大すると同時に、その表現の多様性から、定義を難しくしています。

④  
⑤  
昨年10月には、「電楽Ⅲ～ライブ・エレクトロニクス現在形」を世田谷美術館との共催で行いましたが、今年の「電楽Ⅳ～ライブ・エレクトロニクス過去形／未来形」では、第1部“ライブ・エレクトロニクス過去形”として、この分野の議論で度々話題になるケージの《Imaginary Landscape NO.1》と、ライブ・エレクトロニクスの名作として認められているプーレーズの「二重の影の対話(Sax ヴァージョン)」をお聴きいただき、沼野雄司氏のレクチャーによってライブ・エレクトロニクスの歴史的な検証を行います。また第2部では、“ライブ・エレクトロニクス未来形”として、映像を伴った新作2作品を上演いたします。



②-①

ジョン・ケージ (1912-1992 / アメリカ)

心象風景第1番

作曲 1939年

John CAGE (1912-1992/ USA)

Imaginary Landscape No.1

1939

この曲は、シアトルのラジオ局で、ジャン・コクトー作「エッフェル塔の花嫁花婿」を放送劇とするための伴奏音楽の一部として作曲された。1912年生まれの若いケージが、ヘンリー・カウエルのもとで音楽のさまざまな可能性を学んだ後に、1935年～37年の間シェーンベルクのレッスンを受けたことは、その後の作風を決定づける大きな要因となった。カウエルとシェーンベルクは、共に急進的と呼ばれてもその音楽に対する考え方は全く異なり、ケージは対極にある二人の師匠のレッスンで、己が何者であって何者でないか、自身の資質についてはっきりと自覚することになる。

《Imaginary Landscape(心象風景) NO.1》は、ケージのそのような時代にあって、電気機器を用いることの可能性と新たな音楽構造への確信を世に問う歴史的な作品となった。2台のターンテーブルをそれぞれ操作する二人の演奏者とラージ・チャイニーズ・シンバルの打楽器奏者、それにストリングス・ピアノ奏者の四人で演奏される。ピアノをわざわざストリングス・ピアノとしたのは、手のひらでミュートされた3音と内部奏法によるグリッサンドだけで演奏されることで、これまでのピアノとは異なる特別な楽器として意識させたかったのかもしれない。ターンテーブルのレコードには、指定された周波数が記録されていて、それらの周波数の音と回転速度を再生したまま操作することで得られるグリッサンドが素材になっている。

(西岡龍彦 記)

②-②

ピエール・ブーレーズ (1925- / フランス)

二重の影の対話 (Sax ヴァージョン)

作曲 1985年

Pierre BOULEZ (1925- / France)

DIALOGUE DE L'OMBRE

1985

L. ベリオの誕生日を祝う為に作曲された。予め録音されたサクソフォンの音が、客席を取り巻く様に配置された6台のスピーカーから会場に送り出される。この時期を前後してブーレーズはライブエレクトロニクスを積極的に用い始める様になるが、それには IRCAM で開発された 4X などのおかげでリアルタイムに音を変換出来る様になった事が大きい。題名はポール・クローデルが 1924 年に書いた戯曲「縞子の靴」の一場面のタイトル「L' Ombre double」(二重の影の意) から用いられている。この曲は冒頭と末尾に現れる 2 つの Sigle (略号) と 6 つの Strophe (詩節)、そしてその間に 5 つの Transition (推移部) が挟まる構成になっている。Strophe は実際にステージ上で演奏し、それ以外の Sigle, Transition はスピーカーから流れる音になり、リアルタイムの演奏と録音された演奏が交互に現れる。この時期のブーレーズの作品には初期の《ピアノ・ソナタ第三番》の様な管理された偶然性の影は薄くなっているが、この作品にはローマ数字のナンバーの楽譜を演奏する「version aux chiffres romains」とアラビア数字のナンバーの楽譜を演奏する「version aux chiffres arabes」の 2 通りの可能性の選択を奏者に委ねており、このどちらを選ぶかによって Transition の演奏順が変化する。今回は《二重の影の対話》の初演者の A. ダミアンの録音と同じ「version aux chiffres romains」を採用している。《二重の影の対話》は《クラリネットと 21 の楽器の為のドメーヌ》(1961/1968) の一部を拡大するというアイデアで構想し、実際に曲中に《ドメーヌ》の音形も見られるが、他にもベリオの《セクエンツァ IV a》、《セクエンツァ VII a》や《シュマン》他にはシュトックハウゼンの《友情に》の断片も引用されている。

(佐藤淳一 記)

①

②

③

④

⑤



11/6 fri

②-③



キム・ニコル

無声映画「真夏の夜の夢」による箏とピアノのためのライブ・エレクトロニクス「Dream Away the Time」

作曲 2009年／初演

Nicole KIM

Dream Away the Time

2009, premiere

「Dream Away the Time」は、シェイクスピアの『真夏の夜の夢』セリフの一部です。

現実と夢の境で劇が展開する『真夏の夜の夢』の雰囲気は、電子音楽と楽器のライブ演奏が作り出す非現実感に似ていると思われて、タイトルにすることにしました。

現実と夢の境の他にも、この作品では、いくつかの領域の境界に対する再解釈を試みています。それは、日本の伝統楽器として箏が持っている表現の幅、映像と音楽の関係、近代から拡大され続けてきたピアノ奏法の可能性とそれに対する反動、そして、100年前に作られた映像と共に流される電子音。これらの領域の間に新しい関係を与えながら、シェイクスピアのロマンチックな物語の雰囲気を音楽に移すことを目指しました。

映像：『真夏の夜の夢』（1909）

監督：Charles Kent, J. Stuart Blackton

チャールズ・ケント、スチュアート・ブラックトン

脚本：Eugene Mullin ユージーン・マーリン

原作：William Shakespeare ウィリアム・シェイクスピア

出演：Walter Ackerman ワルター・アッカーマン

Charles Chapman チャールズ・チャップマン

Dolores Costello ドロレス・コステロー

Helene Costello ヘレーネ・コステロー

公開：1909年12月（USA）配給：Vitagraph

製作国：USA（上映許可：BFI Film Library）

**Profile** ▶ 2006年、オーストラリアのSydney Conservatorium of Musicの作曲科を卒業した後、文部科学省の国費奨学生として、来日。現在、東京藝術大学音楽研究科、音楽音響創造、修士2年在学中。電子音楽作曲以外に、映画や美術作品のための音楽も作曲している。今年の国際コンピュータ音楽学会（ICMC）で作品発表を行った。

②-④



水野みか子

整列効果

作曲 2009年／初演

Mikako MIZUNO

Alignment Effect for bassoon and computer

2009, premiere

時空間を認知する際に、人は記憶や経験から記号化した整合性に依存する。地図をもとに方向判断したり、流れ行く景色の中に知人の顔を追ってみたり、あれこれの出来事を回想してつじつまが合うように時間順所に沿って並べたり、といった場合にも、記憶の中にできあがっている知覚座標軸に基づいて、目前で起こっていることを判断する。軸からはずれる状況では、ズレを意識し非現実性を感じて現実の復元方向へと自ずと向かうことになる。たとえ緩慢な変化ではあっても、ズレの状態は次第に「記憶された現実」へと戻っていく。

この作品では、現実と非現実の関係を、ズレと修復、実写と合成編集、記号化された音と現実に鳴り響く音響、計量化される空間と記憶空間、などの視点で対照し、媒介して、空間と視覚コンテキストの中での音を作品化しようと試みている。アウグスチヌスは記憶を課題としながら空間論へ至り、それよりもはるか昔には、協和する二つのピッチは空間上の点としてとらえられ、二音の差はDiastemaという空間語で名付けられていた。Diastemaはまた、二つの点の間を空間上で結ぶ直線もあった。

**Profile** ▶ 東京大学文学部美学芸術学科、愛知県立芸術大学音楽学部・研究科を卒業・修了。音楽学研究と作曲との両面で活動を展開。名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授。作品は、ベルリン/ケルンGEDOK、モーツアルテウム、ザルツブルグ・レジデンツ、プールジュ電子音響音楽IMEBフェスティバル、ハンガリアン・ラジオ、オーストリア国営放送、ヴェネチア国際音楽祭、アルバ国際音楽祭などに招待された。2001年、現代音楽の空間性に関する研究で博士号取得。近作に《琵琶と管弦楽のための「光の扉へル」》（2002）、管弦楽のための《曇気楼消えなば宿るところなし》（2008）、ソプラノと能管と二つの楽器のための《MISOGI》（2006）、フルートとハーブのための《Hi-izu》（2008）、ヴァイオリンとコンピュータのための《K-aki》（2009）、トロンボーンとコンピュータのための《masque》などがある。

①  
②  
③  
④  
⑤



## 出演者プロフィール

### 岩崎 真 (レコードプレイヤー)

▶ 東京藝術大学大学院音楽研究科作曲課程修了。作曲を南弘明、河田文忠、北村昭、黛敏郎の各氏に、音楽音響を白砂昭一、若林駿介の各氏に師事。現在、東京藝術大学演奏藝術センター助教として学内ホール・奏楽堂の音響を担当している。録音をつとめたCD、『多田羅迪夫・奏楽堂ライブ:ドイツ歌曲の夕べ』は「レコード芸術」誌で特選盤に選ばれた。日本電子音楽協会事務局長、日本音響学会会員。

### 山田 香 (レコードプレイヤー)

▶ 東京藝術大学音楽学部作曲科を経て同大学院修了。最近の作品は「B → C 白木あいソプラノリサイタル」にて《千羽鶴の願い》《スイーツ選びは止まらない》(委嘱作品)、東京藝術大学創立120周年記念音楽祭にて《Viva La Festa! ~ MOOGとELS-01Cのために》を発表など。現在、国立音楽大学非常勤講師、東京大学教育学部附属中等教育学校非常勤講師、東京藝術大学音響研究室教育研究助手、日本電子音楽協会正会員。

### 牧野美沙 (打楽器)

▶ 神奈川県出身。幼少よりピアノ、エレクトーンなどの音楽教育を受ける。12歳より打楽器をはじめ。神奈川県立神奈川総合高等学校普通科個性化コース卒業。現在東京藝術大学器楽科打楽器専攻4年に在学中。2009年4月にモーニングコンサートのソリストとして芸大フィルハーモニー管弦楽団とマリimbaコンチェルトを共演。これまでに、藤本隆文、岡田眞理子、今井忠子の各氏に師事。MARIMBA ENSEMBLE「quint」メンバー。

### 山本清香 (ピアノ)

▶ 1999年ジュニアエレクトーンコンクール全国大会銀賞受賞。2003年静岡・わかふじ国体での式典演奏に参加。2009年東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。純音楽だけにとどまらず、ミュージカルや映画、野外イベント、音楽教室での教材などの音楽、作編曲を多数手がけている。これまでに、作曲を鳥山妙子、川井學、土田英介、浦田健次郎、ピアノを明壁小雪、泊真美子、岡田敦子の各氏(敬称略)に師事。Official Site: <http://www.382382.net>

### 佐藤淳一 (サクソフォーン)

▶ 洗足学園音楽大学大学院管打楽器首席修了。現在東京藝術大学大学院博士後期課程在学。L.ベリオのコンチェルト《レシ/シュマンVII》やP.ブレーズの《二重の影の対話》を日本初演した演奏は高い評価を受けた。またパイパーズでの現代奏法に関する連載や、楽器ガイドの執筆にも携わる。パリサクソフェスティバルとGAP夏期講習会に参加。C.ドゥラングル、V.ダヴィットらのマスタークラスを受講。サクソフォーンを宗貞啓二、大和田雅洋、富岡和男、平野公崇の各氏に師事。東邦音楽大学非常勤講師。

### 森 威功 (コンピュータ)

▶ 洗足学園音楽大学卒業、ニューヨーク大学大学院修士課程修了。作曲をロバート・ロー、サウンドプログラミングをリチャード・ブーランジェ各氏に師事。現在の活動はコンピュータ音楽制作をはじめCM音楽制作やソフトウェア開発など多岐にわたる。作品はMusica Viva 2007(ポルトガル)、ICMC国際コンピュータ音楽会議2008(北アイルランド)、ニューヨーク電子音響音楽フェスティバル(アメリカ)、101 Tokyo(アイスランド)等で演奏されている。東京藝術大学、洗足学園音楽大学各講師。日本電子音楽協会、先端芸術音楽創作学会各会員。

.....  
①  
.....  
②  
.....  
③  
.....  
④  
.....  
⑤  
.....

### 沼野雄司 (音楽学)

▶ 1965年、東京生まれ。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。博士(音楽学)。主な著訳書に「リゲティ・ベリオ・ブーレーズ」(音楽之友社)、「光の雅歌」(共著、春秋社)「世界音楽の時代」(共訳、音楽之友社)など。又、読売新聞で音楽批評を担当。現在、桐朋学園大学准教授。

### 吉川あいみ (生田流箏曲)

① ▶ 幼少より箏、地唄三絃を深海さとみに師事。平成15年度文化庁新進芸術家国内研修生。平成21年東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。在学中、宮城賞受賞。現在東京芸術大学大学院音楽研究科在学。

### 桑原真知子 (バスーン)

② ▶ 岐阜大学卒業。愛知県立芸術大学音楽学部卒業。大垣市新人招待演奏会に出演。在学中、国際フェスティバル美濃白川音楽アカデミーの奨学生として96年よりイタリアのマペリーニ音楽院に留学。同年、フィレンツェにてM.ウェルバのマスタークラスを受講。アンサンブル・ヴァリオ、アンサンブル・カラヴィンカ、名古屋二期会オペラ管弦楽団のメンバー。蓼科バスーンカルテット音楽工房NAKAGAWA「音楽。それは心の唄」CDレコーディングセッションに参加。パイパーズより発売中。これまでファゴットを青谷良明、菅原眸、中川良平、マウリッツィオ・フェディーの各氏に師事。室内楽を中川良平、菅原眸、村田四郎の各氏に師事。

### 新美太基 (映像プログラム)

③  
④  
④ ▶ コンピュータ音楽、映像制作、インタラクティブシステムデザインなどを中心にデジタル・アートでの活動を展開。2009年5月「電子音響音楽シンポジウム & コンサート」(日本電子音楽協会/日本音楽学会共催)にてテクニカル・チーフを務める。2009年6月にはコンテンポラリー・ダンサー倉知可英の「KAYAKU NIGHT vol.2」に出演。名古屋市立大学芸術工学部在学中。